

『ヒューゴの不思議な発明』 原題 HUGO 2011



(C) 2011 Paramount Pictures. All Rights Reserved.

## 映画批評

### 『ヒューゴの不思議な発明』

～溢れでる感動を呼び起すヒューゴ～

塚田三千代

本映画の鑑賞後の第一声は誰もみな同じで、子供から大人まで一緒に感動と楽しみを共有できる映画である。『ヒューゴの不思議な発明』は、希望を取り戻すことを使命とする少年と少女の冒険物語で終わってはいない。映画史において重要な映画監督・製作者と呼ばれるジョルジュ・メリエスを再発見し、映画を文化として認識させる映画でもある。架空の人物と実在した人物とを見事に融合させ、それを3D映像で完成させた。マーティン・スコセッシ監督の映画文化への功績は偉大である。

映画英語教育の視点から、本映画の推奨ポイントを挙げておこう。

#### 【推奨ポイント】

- 子供も大人も共に楽しめる。ファンタジー、アドベンチャーに富む3D映像。
- 標準的なイギリス英語とアメリカ英語で、普通の速さで明確な話し方をしているので聴き取りやすい。一部にフランス語。
- ヒューゴ少年の希望へ向けたミッションが伝わってくる。
- ジョルジュ・メリエスの映画史における評価を理解できる。(映画史リテラシー)
- 1930年代初期のパリ駅周辺の景観を再現している。

□ 絵や文を自動記述できる機械仕掛けのロボット(automaton)が登場。本映画には登場しないが、社会現象としてはこの時代に、自動記述できる機械に関心を持つシュルレアリストを始めとする詩人や小説家、美術家たちがいた。

映画『ヒューゴ』の時代背景(1931年)は、機械産業の興隆期である。19世紀前半までにヨーロッパ各地に広がった産業革命以来、機械による大量生産が行われ、近代資本主義が誕生し、映画というメディア芸術も市民の娯楽産業として定着し始める。才能ある人々は機械を使った発明の夢と野心をふくらませた。その一方で機械化が人間性を奪い、人間が機械の奴隷になるマシーン・エイジを風刺的な社会批判もある。その代表的な映画がチャップリンの『モダン・タイムズ』である。『ヒューゴ』では労働者階級に属する少年ヒューゴの置かれた劣悪な状況と駅を往来する着飾った裕福な人々の暮らしぶりとを対比させて、機械と産業社会のありさまを表している。映画『ヒューゴ』では機械文明を『モダン・タイムズ』のように否定的シニカルにとらえるのではなく肯定的にとらえている。ハート型の鍵が少年ヒューゴと少女イザベル、パパ・ジョルジュの養女でもあるイザベルをつなぐ赤い糸である。アンドロイドの修理法を記した手帳、機械人形は愛の絆であり、愛の証であるとして愛すべきものとしてとらえている。



#### 【映画史リテラシー】

映画が動く絵として最初に登場したのは1895年のこと。オーギュストとルイ・リュミエール兄

弟が『ラ・シオタ駅への列車到着』(1897)を発表した。巨大な蒸気機関車がスクリーンに現れて横切ると、これを観た観客は驚き飛び上がったというエピソードが残っている。ジョルジュ・メリエス (1861～1938)はこの風潮をみてこれは新しい芸術様式を創作するチャンスになると考え、本業である手品師のマジック世界をステップング・ストーン として、映画製作に没頭するようになった。

彼の初期の作品は、ステージで見せるマジック・ショーの再現のようであった、これは『ヒューゴの不思議な発明』の中の映画で上映されている。

しだいにストーリーテリングや編集技術の実験を行い、特殊効果を産出した。ストップ・モーション、コマ抜き撮影、多重露光、場面転換(ディゾルブ)手書きの色彩などの技法である。彼の発明したこの手法は今日では常識的な映画手法としてなお使われている。

メリエスの傑作(註1.2.)は、1902年に製作された上映時間14分の『月世界旅行』(1902年製作 ジュール・ヴェルヌ原作)である。これは映画史にその名を刻んでいる作品である。当時、映画の発明や製作に係わった人物には、リュミエール兄弟(仏国)の他にもトーマス・アルヴァ・エジソン(米国)もいるが、メリエスは彼らと一時的に係わるが、結局は収益の利益分配などで袂を別つ。当時、すでに3D映画のような映像効果も考案されていたそうである。これらについては、メリエス研究の映画史家たちによって、今後さらなる詳細が記述されることだろう。

#### 註1. 『月世界旅行』(1902)

The original film is public domain\* / "Le Voyage dans la Lune" (1902) / Creative Commons "by-nc-sa" License / <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>  
(映画字幕:日本語 音声:英語のナレーション)

#### 註2. 第1章 映画の誕生(2)「20世紀の魔術師～ジョルジュ・メリエスの魔術映画～

[http://www5f.biglobe.ne.jp/~st\\_octopus/MOVIE/BIRTHOFMOVIE/2MELIESS.htm](http://www5f.biglobe.ne.jp/~st_octopus/MOVIE/BIRTHOFMOVIE/2MELIESS.htm)

(上記のサイトは、映画史リテラシーに役立つ)

©m.tsukada. All Rights Reserved.



**【映画情報】**

監督&製作: マーティン・スコセッチ

脚本: ジョン・ロガン(『グラティエータ』2000年製作。でオリジナル脚本賞にノミネートされて脚光を浴びる。脚本家の他劇作も10本以上手がけている。)

原作者: ブライアン・セルズニック(ニューヨーク・タイムズのベストセラー作家でイラストレーター。「ユゴーの不思議な発明」と「ウォーターハウス・ホーキンス」の恐竜)でコールデコット賞を受賞。

出演:

エイサ・バターヒルト (ヒューゴ・カブレ) パパ・ジョルジュ/ジョルジュ・リエス (ベン・キングズレー) イザベル (クロエ・グレース・モレッツ)

鉄道公安員 (サシャ・バロン・コーエン) ママ・ジャンヌ (ヘレン・マクローリー) ヒューゴの父親 (ジュード・ロー)

2011年製作 アメリカ映画 配給: パラマウント ピクチャーズ ジャパン

2012年3月1日から、TOHO シネマズ有楽座ほか、全国ロードショー